

2024 年漁期におけるニゴロブナ漁獲物調査

杉江天音・根本守仁・片岡佳孝・寺井章人

1. 目的

資源管理型漁業を推進するうえでの基礎資料とするため、ニゴロブナの主要な漁法である沖曳網漁および刺網漁での漁獲物の年齢や体長等の調査を行った。

2. 方法

調査は 2024 年 3 月 9 日に琵琶湖北湖の水深 60～70m の水域で沖曳網により漁獲されたニゴロブナ 77 尾、および 2024 年 2 月 29 日、3 月 22 日に琵琶湖北湖の水深 90m で刺網により漁獲されたニゴロブナ 43 尾を対象に実施した。沖曳網漁獲魚については、漁獲可能サイズとなる全長 220mm 以上の無選別サンプルを収集した。刺網漁獲魚は銘柄メス(成熟した雌)と銘柄オス(雄と未熟な雌)の合計体重の比が 1:1 になるよう混合したものを収集した。標本は冷凍保存とし、解凍後に体長および体重を計測した。年齢査定は、鱗の輪紋の乱れを観察することにより行った。

3. 結果

漁獲魚の体長について、沖曳網では 160～210mm、刺網では体長 180～220mm が中心となった(図 1)。年齢別の個体数について、沖曳網では主に 1～4 歳魚、刺網では主に 2～4 歳魚が漁獲されていた。沖曳網、刺網ともに 3 歳魚が最も多く漁獲されており、両漁法を総合すると 3 歳魚が最も多かった(図 2)。

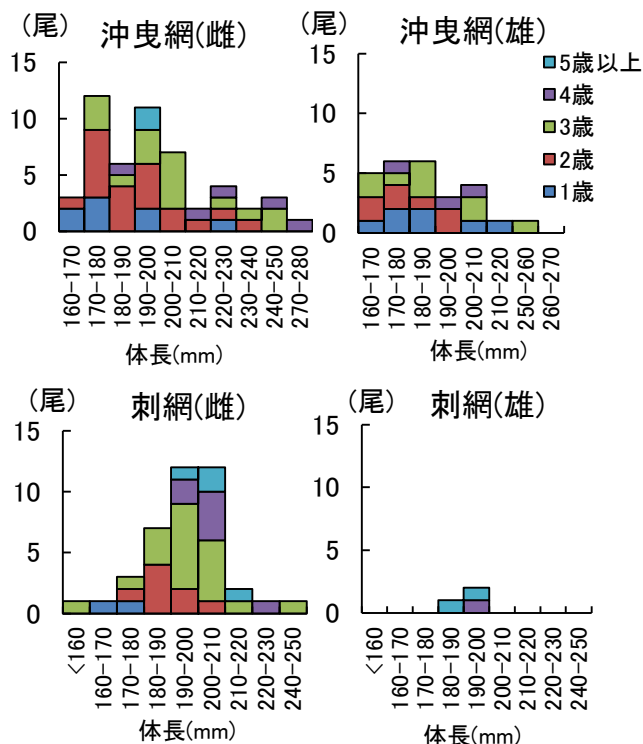


図 1 漁獲魚の体長組成

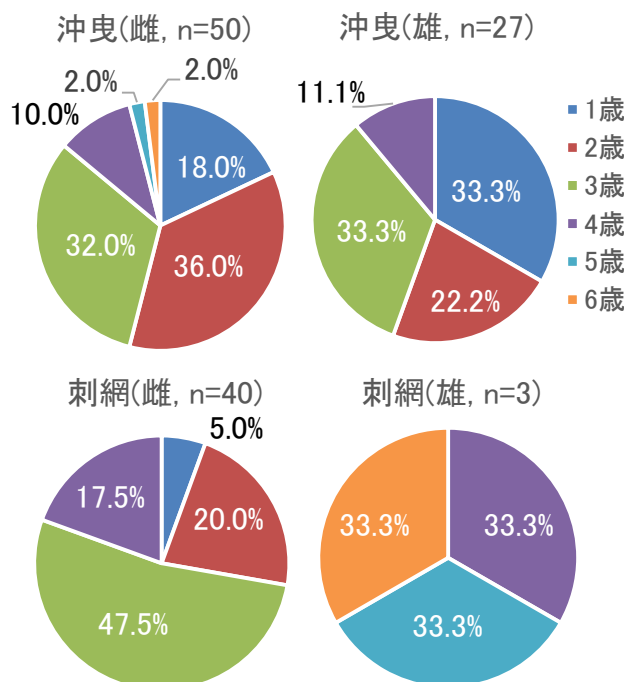


図 2 漁獲魚の年齢組成

本研究は水産庁からの委託事業「水産資源調査・評価推進委託事業」の一部として実施した。